

5月の星空

26日の夕方から宵に皆既月食が起こる。年間最大の満月、いわゆる「スーパームーン」がどのような色合いになるのか楽しみだ。肉眼でもよく見えるが、継続時間が短く、高度が低いので、時刻や方向の確認、観察の準備をしっかりとっておこう。安全への配慮も念入りに。

夕方の西の空には、約1年ぶりに金星が見えるようになる。13日に細い月と接近、下旬に水星と接近する様子も見逃せない。あまり高くないので、見晴らしの良い場所で探そう。宵に火星、明け方に木星と土星も観察すれば、一日で曜日の星を全部見ることになる。

うみへび座を頭から尾の先までたどったり、春の大曲線をつないだり、夜空を大きく渡るような星の並びを眺めるのは気分転換に打ってつけだ。遠出して星見はできなくても、身近で見られる夜空の魅力を、ぜひ感じてみたい。

5月13日 細い月と金星が接近

5月13日の夕方、西北西の低空で月齢2の細い月と金星が接近して見える。

地球照を伴った幻想的な細い月と金星の共演は、数ある月と惑星の接近の中でも随一の美しさだ。肉眼や双眼鏡で眺めたり、写真に収めたりしてみよう。日の入り1時間後には金星が沈んでしまうので、なるべく早い時間帯に、西北西の低空が開けたところで観察しよう。月と金星の上には水星も見え、翌14日には並び方が高いほうから月・水星・金星の順番が変わる。また、月は3日後の16日に火星と接近する。月と金星の次回の共演は6月12日。



5月16日 月と火星が接近

5月16日の夕方から宵、西北西の空で月齢5のやや細い月と火星が接近して見える。

火星は地球から3億km以上の距離まで遠ざかり、1.7等級まで暗くなっていて、月と並ぶとあまり目立たない。夜21時ごろには高度が20度未満まで低くなるので、早めの時間帯に眺めておこう。次回の接近は6月13日。



2021年5月26日 夕方～宵

皆既月食

赤く大きい月
低く短い食

5月26日の夕方から宵にかけて、月が地球の影に隠される皆既月食が起こり全国で見られる。日本国内で皆既月食が見られるのは2018年7月28日以来、約3年ぶりとなる。

月食の進行は全国で同時刻に起こり、18時45分に部分食が始まって月が欠けていく。このとき、北海道西部～中部地方より西の地域ではまだ月が地平線の下にあり、この地域ではこれより後に欠けた状態で月が昇ってくる(月出帯食)。月が地球の影に完全に入ってしまう皆既食は20時11分から20時26分で、継続時間は約15分と短い。21時52分に部分食が終わる。

月の高度は皆既食のときで15度前後、部分食終了時でも30度未満と低いので、あらかじめ南東方向の見晴らしを確認しておこう。低めの月食なので、風景とのコラボレーションも楽しみだ。赤銅色の月と、近くに見えるさそり座の1等星アンタレスとの色比べもしてみたい。また、この日の満月は今年見える満月のうちで最も大きなもので、「スーパームーン」と呼ばれることもある。肉眼ではっきりわかるほど大きさに変化が見られるわけではないが、少し意識して眺めてみたい。年間最大の満月が皆既月食となるのは、次回は2033年10月8日となる。なお、今年は11月19日の夕方から宵にも大きく欠ける部分月食が起こる。



モバイルアプリで調べる

iOS用の「iステラ」「iステラHD」やAndroid用「スマートステラ」などのモバイルアプリを使うと、事前に月の欠け方や方位・高度を調べることができます。月食当日は、月の近くにある星や星座の名前を知るのにも便利です。